

久慈市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 19年5月～25年3月)

※ 期間延長適用後

【中心市街地を巡る状況】

- H10 県立病院の移転→病院職員、通院患者等来街者激減
- H14 ダイエーの撤退
- 沿道型商業施設の立地
- 高齢化の進展(市全体:23.4%、中心市街地:31.1%)
- 観光資源(琥珀博物館・日本有数の白樺林を活かした自然体験等)は、中心市街地外に存在し、中心市街地には市(3と8のつく日に開催)のみ



- 人口減少 中心市街地9.5%減 H13:2,321人→H18:2,100人(市:3.5%減)
- 商品販売額 H9:12,507百万円→H16:4,460百万円(△64%)
- 郊外・バイパス沿い店舗を選好する人の割合 H10:20%以下→H15:約50% (県広域消費購買動向調査)

○ 賑わいが失われつつある

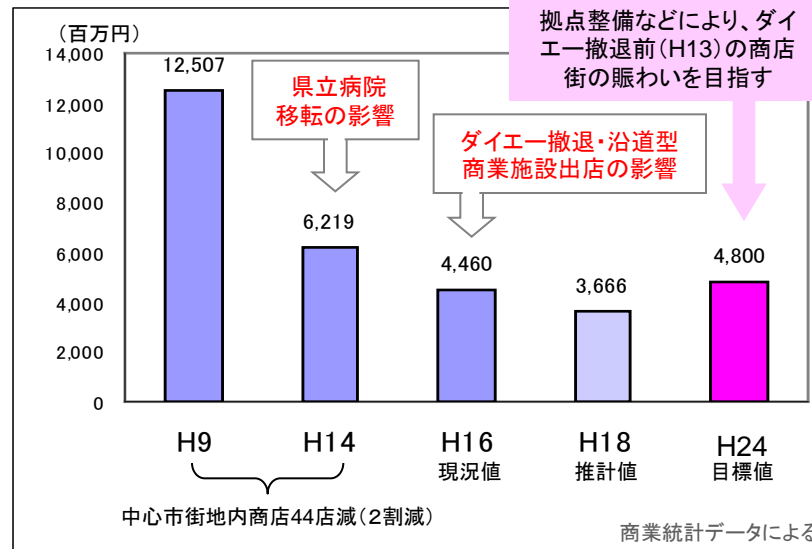
- ・中心市街地の通行量は、H10→H18で半減(平日△49.8%、休日△51%)
- ・市全体の観光客は増加しているが、中心部は素通り、立ち寄りなし
- ・360年続いている「市」の衰退

→出店者高齢化・後継者不足から活気薄れつつある

【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H24)
中心市街地全体の賑わいの創出	年間商品販売額	4,460百万円 H16商業統計	4,800百万円
	歩行者・自転車通行量(6地点合計)	3,871人 H18FY	5,050人
安心・快適な生活空間づくり	定住人口の社会増減数	▲130人 H13～H17合計	+10人 H19～H24合計

(年間商品販売額の動向と数値目標)



360年の伝統を有する「市」、新鮮な海産物、琥珀等の地域資源が持つ強みを継承・発展させるため、地元中小企業・個人からの出資により物産販売・展示施設等を整備し、これを起爆剤として中心部への人の流れを創出する。

久慈市中心市街地活性化基本計画の事業概要

結いが支える賑わいの創出



○**ダイエー跡地**に、賑わい創出の拠点となる「風の館」、「土の館」を、その周辺に「山車創作体験館」、「**歴通路(レトロ通り)**」を一体的に整備。

- ・風の館: 道の駅、観光情報発信・展示、産直品のレストラン、まちづくり団体活動の場
- ・土の館: 特産品・産直生鮮食料品販売、飲食等
- ・山車創作体験館: 山車製作風景見学、創作体験
- ・歴通路通り: 屋台村・イベント・商店街への回遊路

○土の館の整備に対し、**101の法人・個人**(うち地元中小企業68社・個人31人)から**1億8,410万円の出資**。(個人からの出資が4割を占める)

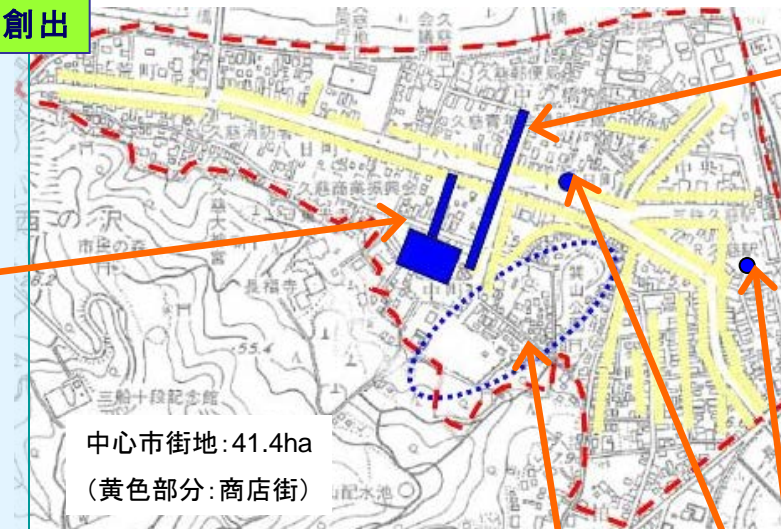
○**市日**や**商店街**とも連携したイベントや、琥珀博物館など市内の**観光施設**とも連携した観光商品開発や連携イベント等も実施。

結いが支える賑わいの創出



○地産地消、地域住民の最寄り品購入の場であり、観光客も多く訪れる場でもある**市日の活性化**を図るため、**テントの統一、手洗い場・作業場**などの環境整備を実施。

○電線地中化・歩道バリアフリーなど歩行環境の改善。



安心・快適な生活空間づくり



○県立久慈病院跡地、巽山公園、市民の森を市民の「**憩いの空間**」として**一体的に整備**。

○大型駐車場を整備し、隣接する「風の館」「土の館」と共用。



○空き店舗等で、社会福祉協議会や**NPO法人**らが**高齢者デイサービス、高齢者サロン、育児支援施設**を運営し、世代を超えたイベント交流などを実施。



街なかへの住み替え支援事業

○中心市街地外居住者が、中心市街地に住居や店舗付住宅を新築の際に、建設費の一部(100万円)を補助。